

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-293629

(43)公開日 平成6年(1994)10月21日

(51)Int.Cl. <sup>5</sup>	識別記号	片内整理番号	F I	技術表示箇所
A 6 1 K 7/50		9283-4C		
7/00	V	9051-4C		
C 1 1 D 1/37				
3/40				
// (C 1 1 D 1/37				

審査請求 未請求 請求項の数1 F D (全 6 頁) 最終頁に続く

(21)出願番号 特願平5-107438

(22)出願日 平成5年(1993)4月8日

(71)出願人 000000952

鐘紡株式会社

東京都墨田区墨田五丁目17番4号

(72)発明者 土屋 雄一

神奈川県小田原市寿町5丁目3番28号 鐘紡株式会社化粧品研究所内

(72)発明者 吉田 勝彦

神奈川県小田原市寿町5丁目3番28号 鐘紡株式会社化粧品研究所内

(54)【発明の名称】 パール光沢を有する洗顔料組成物

(57)【要約】

【構成】 特定の脂肪酸組成を有するエチレングリコールジ脂肪酸エステルと、イセチオネート型陰イオン界面活性剤と、ポリオキシエチレンアルキルエーテル酢酸塩を含有することを特徴とするパール光沢を有する洗顔料組成物。

【効果】 本発明のパール光沢を有する洗顔料組成物は、皮膚に対する作用が温和であり、しかも優れた起泡力を有し、良好なパール光沢を安定的に保つ。

## 【特許請求の範囲】

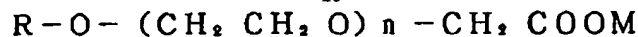
【請求項1】 脂肪酸組成がC<sub>14</sub>が20～80%、C<sub>16</sub>が0～80%、C<sub>18</sub>が0～80%、ただしC<sub>16</sub>とC<sub>18</sub>の合計量が20～80%のエチレングリコールジ脂肪酸エステルと、

一般式(A)

【化1】



\*10



(式中、Rは炭素数12～18のアルキル基、nは2～10の数を表す。Mは水素原子又はNa、K、NH<sub>4</sub>、もしくはアルカノールアンモニウムイオンを表す。)で表されるポリオキシエチレンアルキルエーテル酢酸塩とを含有することを特徴とする、パール光沢を有する洗顔料組成物。

## 【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、皮膚に対する作用が温和で、優れた起泡力を有し、安定性の良好なパール光沢を有する洗顔料組成物に関する。

【0002】

【従来の技術及び発明が解決しようとする課題】従来、洗顔剤用の界面活性剤として、アルキル硫酸塩、ポリオキシエチレンアルキルエーテル硫酸エステル塩及びα-オレフィンスルホン酸塩などのアニオン界面活性剤が広く使われている。しかし、これらアニオン界面活性剤は、程度の差はあるがいずれも皮膚刺激性を誘発するという欠点を有している。

【0003】また従来より、高級感の付与を目的に、天然の魚鱗屑を配合することや、オキシ塩化ビスマス、雲母やチタン等のパール系顔料を配合すること等が知られているが、原料が高価、耐光性や安全性に問題がある、保存中にパール剤が沈降する等種々の欠点を有している。また、エチレングリコールジステアレートはパール光沢剤として広く使用されているが、40～50℃程度の温度で熔融溶解し、外観を著しく損なう等の欠点を有※



(式中、Rは炭素数12～18のアルキル基、nは2～10の数を表す。Mは水素原子又はNa、K、NH<sub>4</sub>、もしくはアルカノールアンモニウムイオンを表す。)で表されるポリオキシエチレンアルキルエーテル酢酸塩とを含有することを特徴とする、パール光沢を有する洗顔料組成物である。

【0007】本発明で使用する、エチレングリコールジ脂肪酸エステルの配合量は、一般的には3～20重量%であり、好ましくは7～13重量%である。配合量が3★50

\* (式中、Rは炭素数7～19のアルキル基またはアルケニル基、Mはアルカリ金属、NH<sub>4</sub>又はアルカノールアンモニウムイオンを示す。)で表されるイセチオネート型陰イオン界面活性剤と、

一般式(B)

【化2】

※している。

【0004】そこで本発明者らは上記の事情に鑑み、鋭意研究した結果、エチレングリコールジ脂肪酸エステルとイセチオネート型陰イオン界面活性剤とポリオキシエチレンアルキルエーテル酢酸塩とを含有する洗顔料組成物が、皮膚に対する作用が温和で、優れた起泡力を有し、安定性の良好なパール光沢を有する洗顔料組成物となることを見出し、本発明に至った。

【0005】即ち、本発明は皮膚に対する作用が温和で、優れた起泡力を有し、安定性の良好なパール光沢を有する洗顔料組成物を提供することを目的とするものである。

【0006】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成する本発明は、脂肪酸組成がC<sub>14</sub>が20～80%、C<sub>16</sub>が0～80%、C<sub>18</sub>が0～80%、ただしC<sub>16</sub>とC<sub>18</sub>の合計量が20～80%のエチレングリコールジ脂肪酸エステルと、一般式(A)

【化3】



(式中、Rは炭素数7～19のアルキル基またはアルケニル基、Mはアルカリ金属、NH<sub>4</sub>又はアルカノールアンモニウムイオンを示す。)で表されるイセチオネート型陰イオン界面活性剤と、一般式(B)

【化4】

★重量%未満では、良好で安定なパール光沢が得られにくく、20重量%を超えると起泡力が劣る傾向がある。

【0008】本発明における前記一般式(A)で表されるイセチオネート型陰イオン界面活性剤としては、ヤシ油脂肪酸エチルエステルスルホン酸ナトリウム(YS-Naと略記する)、ラウリン酸エチルエステルスルホン酸ナトリウム(LS-Naと略記する)、ヤシ油脂肪酸エチルエステルスルホン酸トリエタノールアミン(YS-Tと略記する)等が好ましい。

【0009】本発明における前記一般式(B)で表されるポリオキシエチレンアルキルエーテル酢酸塩としては、ポリオキシエチレン(2)ラウリルエーテル酢酸ナトリウム、ポリオキシエチレン(4.5)トリデカンエーテル酢酸ナトリウム、ポリオキシエチレン(6)ミリスチルエーテル酢酸アンモニウム、ポリオキシエチレン(8)パルミチルエーテル酢酸ジエタノールアミン、ポリオキシエチレン(10)ステアリルエーテル酢酸トリエタノールアミン等のポリオキシエチレンアルキルエーテル酢酸塩等がある。

【0010】本発明の洗顔料組成物の成分である前記一般式(A)の界面活性剤の配合量は9~30重量%、前記一般式(B)の界面活性剤の配合量は1~15重量%、ただし一般式(A)と一般式(B)の界面活性剤の合計量は、洗顔料組成物全量中10~45重量%が好ましい。配合量が10重量%未満では、十分な起泡力が得られにくく、45重量%を超えると均一で安定な組成物を得ることが困難となる。

【0011】本発明のパール状光沢を有する洗顔料組成物は、液状、ジェル状、クリーム状に適用されるが、特にクリーム状において本発明の効果が充分発揮される。

【0012】尚、本発明の洗顔料組成物には、上記必須成分の他に、洗顔料組成物に常用されている成分や、添加剤を配合することも可能である。例えば、高級アルコール、シリコン油、ラノリン誘導体、蛋白誘導体、ポリエチレングリコールの脂肪酸エステル類等の油性成分、脂肪酸アルカノールアミド、ポリオキシエチレンアルキルエーテル及びアルキルアミノキシド等の非イオン性界面活性剤、アルキルアミドプロピルベタイン等の両性界面活性剤、ヒドロキシプロピルメチルセルロース、ヒドロキシエチルセルロース等の水溶性高分子、カチオン性高分子〔ポリマーJR(ユニオンカーバイドコーポレーション社製)、ポリコートNH(ヘンケル社製)マーコート550(メルク社)、ガフカット755N(GAF社製)等〕、殺菌剤、酸化防止剤、紫外線吸収剤、p

H調整剤、色素及び香料等を含むことができる。

【0013】

【実施例】次に実施例によって本発明を更に詳細に説明する。なお、効果の測定は以下の評価法によった。

【0014】(1)泡立ち試験法

ロスマイルス試験法に準じて起泡力を測定した。但し、試料は2%水溶液(CaCO<sub>3</sub> 50ppm人工硬水使用)で温度40℃である。

評価記号                      評価基準

- 10 ◎：泡立ちが極めて良好、起泡力250mm以上  
○：泡立ちが良好、起泡力210mm以上、250mm未満  
△：泡立ちが普通、起泡力170mm以上、210mm未満  
×：泡立ちが不良、起泡力170mm未満

【0015】(2)手荒れ試験法(皮膚刺激性)

各試料につき、男女各5名、合計10名のパネラーを用い、左右どちらか一方の手を、試料濃度5%、温度35℃の水溶液に、他方の手を同温度の水に10分間浸漬する操作を1日当たり2回、2日間続けて行い、左右の手の肌の荒れ状態の差を肉眼で判定した。

評価記号                      評価基準

- ◎：手荒れ性著しく弱い    10人中0~1名  
○：手荒れ性やや弱い      10人中2~4名  
△：手荒れ性やや強い      10人中5~7名  
×：手荒れ性著しく強い    10人中8~10名

【0016】(3)保存安定性試験

温度45℃の恒温室に放置し、パール状外観の有無(日数)を観察した(肉眼にて判定した)。

30 【0017】実施例1~6、比較例1~4

表1及び表2に示す配合組成物のパール光沢を有する洗顔料組成物を通常の方法で調製し、上記試験を行い表3にその結果を示した。

【0018】

【表1】

組 成	配 合 量 (重量%)					
	実 施 例					
	1	2	3	4	5	6
エチレングリコールジ脂肪酸エステル (C <sub>14</sub> :20%, C <sub>18</sub> :80%)	3	—	—	—	20	—
エチレングリコールジ脂肪酸エステル (C <sub>14</sub> :20%, C <sub>18</sub> :80%)	—	20	—	—	—	3
エチレングリコールジ脂肪酸エステル (C <sub>14</sub> :80%, C <sub>18</sub> :10%, C <sub>16</sub> :10%)	—	—	10	—	—	—
エチレングリコールジ脂肪酸エステル (C <sub>14</sub> :50%, C <sub>18</sub> :30%, C <sub>16</sub> :20%)	—	—	—	10	—	—
YS-Na	9	—	30	9	—	—
YS-T	—	9	—	—	30	20
ポリオキシエチレン(4)ラウリル エーテル酢酸ナトリウム	1	—	1	15	—	—
ポリオキシエチレン(6)ミリスチル エーテル酢酸トリエタノールアミン	—	1	—	—	1	8
ラウリル硫酸ナトリウム	—	—	—	—	—	—
$\alpha$ -オレフィンスルホン酸ナトリウム	—	—	—	—	—	—
エチレングリコールジステアレート	—	—	—	—	—	—
ジプロピレングリコール	15	15	15	15	15	15
ヤシ油脂肪酸ジエタノールアミド	8	8	8	8	8	8
モノラウリン酸ポリオキシエチレ ン(20)ソルビタン	1	1	1	1	1	1
精製水	残余	残余	残余	残余	残余	残余

【0019】

\* \* 【表2】

組 成	配 合 量 (重量%)				
	比 較 例				
	1	2	3	4	5
エチレングリコールジ脂肪酸エステル (C <sub>14</sub> :20%, C <sub>18</sub> :80%)	—	—	—	20	—
エチレングリコールジ脂肪酸エステル (C <sub>14</sub> :20%, C <sub>18</sub> :80%)	—	—	—	—	3
エチレングリコールジ脂肪酸エステル (C <sub>14</sub> :80%, C <sub>18</sub> :10%, C <sub>18</sub> :10%)	—	10	—	—	—
エチレングリコールジ脂肪酸エステル (C <sub>14</sub> :50%, C <sub>18</sub> :30%, C <sub>18</sub> :20%)	—	—	10	—	—
YS-Na	9	30	—	—	—
YS-T	—	—	—	30	—
ポリオキシエチレン(4)ラウリル エーテル酢酸ナトリウム	1	—	15	—	—
ポリオキシエチレン(6)ミリスチル エーテル酢酸トリエタノールアミン	—	—	—	—	8
ラウリル硫酸ナトリウム	—	—	—	1	—
α-オレフィンスルホン酸ナトリウム	—	—	—	—	20
エチレングリコールジステアレート	10	—	—	—	—
ジプロピレングリコール	15	15	15	15	15
ヤシ油脂肪酸ジエタノールアミド	8	8	8	8	8
モノラウリン酸ポリオキシエチレ ン(20)ソルビタン	1	1	1	1	1
精製水	残余	残余	残余	残余	残余

【0020】

\* \* 【表3】

試験結果	実 施 例						比 較 例				
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
泡立ち試験	○	△	◎	○	◎	◎	△	◎	○	○	○
手荒れ試験	◎	◎	○	◎	○	○	◎	○	◎	×	△
保存安定性試験	25	38	33	35	37	23	7	10	12	11	3

【0021】実施例1～6より明らかなように、本発明※50※の成分を用いた洗顔剤組成物はいずれも優れた性能を示

していた。一方、必須成分のいずれかを欠いた比較例1～4は、いずれも劣った性能を示し、本発明の目的を達成出来なかった。

【0022】

【発明の効果】以上記載のごとく、本発明が、皮膚に対する作用が温和で、優れた起泡力を有し、安定性の良好なパール光沢を有する洗顔料組成物を提供することは明らかである。

---

フロントページの続き

(51)Int.Cl.<sup>5</sup>

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

C 1 1 D 1:28

1:06)

[First Hit](#)      [Previous Doc](#)      [Next Doc](#)      [Go to Doc#](#)  
**End of Result Set**

☐ [Generate Collection](#) [Print](#)

L4: Entry 5 of 5

File: DWPI

Oct 21, 1994

DERWENT-ACC-NO: 1995-009537

DERWENT-WEEK: 200102

COPYRIGHT 2006 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Facial cleaner compsn. having pearl-like glossiness - contg. ethylene glycol di fatty acid ester(s) with isethionate type anionic surfactant and oxyethylene alkyl ether acetate(s)

PATENT-ASSIGNEE: KANEBO LTD (KANE)

PRIORITY-DATA: 1993JP-0107436 (April 8, 1993)

[Search Selected](#)[Search All](#)[Clear](#)

## PATENT-FAMILY:

PUB-NO	PUB-DATE	LANGUAGE	PAGES	MAIN-IPC
<input type="checkbox"/> <a href="#">JP 06293629 A</a>	October 21, 1994		006	A61K007/50
<input type="checkbox"/> <a href="#">JP 3119966 B2</a>	December 25, 2000		006	A61K007/50

## APPLICATION-DATA:

PUB-NO	APPL-DATE	APPL-NO	DESCRIPTOR
JP 06293629A	April 8, 1993	1993JP-0107436	
JP 3119966B2	April 8, 1993	1993JP-0107436	
JP 3119966B2		JP 6293629	Previous Publ.

INT-CL (IPC): A61K 7/00; A61K 7/50; C11D 1/37; C11D 3/40; C11D 1/37; C11D 1/06; C11D 1/28; C11D 1/37; C11D 1/06; C11D 1/28

ABSTRACTED-PUB-NO: [JP 06293629A](#)

## BASIC-ABSTRACT:

Facial cleaner compsn. having pearl-like glossiness contains an ethylene glycol di-fatty acid ester(s) having a content of 14C fatty acids of 20-80%, a content of 16C fatty acids of 8-80% and a combined content of 16C and 18C fatty acids of 20-80%, (A) an isethionate type anionic surfactant(s) of formula  $R(O)COCH_2CH_2SO_3M$  (I) and (B) a polyoxyethylene alkyl ether acetate(s) of formula  $R-O-(CH_2CH_2O)_n-CH_2COOM$  (II).

In (I): R = 7-19C alkyl or alkenyl; M = alkali metal,  $NH_4$  or alkanol ammonium ion).  
In (II): R = 12-18C alkyl; n = 2-10; M = H or Na, K,  $NH_4$  or alkanol ammonium ion.

Pref. (A) is coconut oil fatty acid ethyl ester sodium sulphonate and/or lauric acid ethyl ester sodium sulphonate. (B) is pref. polyoxyethylene (2) lauryl ether sodium acetate, polyoxyethylene (4.5) tridecane ether sodium acetate and/or

polyoxyethylene (10) stearyl ether triethanolamine acetate.

USE/ADVANTAGE - The compsn. is mild to the skin, foams high and has high stability and pearl-like glossiness.

ABSTRACTED-PUB-NO: JP 06293629A

EQUIVALENT-ABSTRACTS:

CHOSEN-DRAWING: Dwg.0/0

DERWENT-CLASS: A96 D21 E19

CPI-CODES: A10-E01; A12-V04C; D08-B09A; E10-A09B8; E10-C04D3; E10-G02G2;

[Previous Doc](#)

[Next Doc](#)

[Go to Doc#](#)